

生物多様性古賀戦略（案）パブリック・コメント実施結果

生物多様性古賀戦略（案）に対してパブリック・コメント手続きを実施した結果について、古賀市パブリック・コメント手続実施要綱（平成20年3月告示第20号）第11条第1項の規定に基づき、次のとおり公表します。

(1) 政策等の題名	生物多様性古賀戦略（案）
(2) 政策等の案の公表日	平成31年2月12日（火）
(3) パブリック・コメント手続の実施期間	平成31年2月12日（火）から平成31年3月13日（水）（30日間）
(4) 意見等提出者数	6名
(5) 提出意見等件数	9件
(6) 提出意見等を考慮した結果及びその理由	下記のとおり

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画案への反映	ご意見への回答
1	6～7 ページ 古賀を知ろう	<p>「残したい場所」として、10か所が選ばれています。そこで気になるのが、「古賀グリーンパーク」が残したい区域として、入っていないことが気になりました。</p> <p>古賀グリーンパークの森は古賀市が所有していることで、永続性が期待され、自然林に近い在来の森と植林の森とが一体となって、未来の森の基盤が整っています。</p> <p>将来は「古賀のミニ明治神宮の森」になることを期待しています。</p> <p>特色ある古賀の生物多様性が当然期待できる「残したい場所」として、是非、再考いただくよう提案する次第です。</p> <p>1. 公園の概要 在来の山林と竹林地帯を公園として造成されており、平成13年度から、企業、市民、ボランティア団体により約10年間で10万本（48種の広葉樹）を3.8haにわたって植えています。公園内には3～4haの在来の森もあります。公園内には、様々な施設もあり、多くの人が集う森でもあります。公園内の森は遷移や経過の観察ができ、未来に貴重な生物多様性の森を残しています。</p> <p>2. 公園の特色と親密度 子供から大人まで、自由に気軽に、森と接することができ、多様な生物を観察することができます。また、丘陵地にある公園であるため、緩やかな傾斜のある様々なコースを愉しむことができます。地元の方はもとより、県下各地から公園を訪れる方も多く、春夏秋冬の木々の変化に親しみ、桜の開花等も楽しむことができます。公園の森は豊かに成長しています。森が豊かになるにしたがって、多様性のある種が年々増える傾向にあります。</p> <p>3. 学習の場に活用 公園内の森には、平成13年度から近隣の小学校の子どもたちによって育てられた森もあります。小学校の環境教育へも活用されたり、市民活動団体が環境教育イベントを実施したりと、森の大切さや生物多様性を観察可能な場としての活用が期待されています。</p> <p>4. 生物多様性の宝庫 生物多様性の調査は、基礎的な調査を一部除いて、未着手ですが、鳥類、ほ乳類、爬虫類、水生動物、昆虫、菌類、藻類、羊歯、樹木など多くの生物を確認しています。</p>	修正します	ご意見をいただきましたとおり、「古賀グリーンパーク」は多くの人が集い、自然と触れ合うことができる場所であり、環境教育を行ううえでも重要であると認識しております。「生きものがにぎわう場所」として、「古賀グリーンパーク」を追加します。

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画案への反映	ご意見への回答
2		<p>「残したい場所」として市民アンケートで選ばれた5つの☆マークがあり、「生きものがにぎわう場所」として、他に4か所が挙がっています。</p> <p>古賀グリーンパーク（以下、GP）にも立派に育った森がありますけれど、多分、公園内ということで市民のアンケートでは生物多様性の視点から外れたものと思われます。</p> <p>しかし、GPは元々里山の地域を開発したものなので、在来の樹木地も残しながら、九電の「九州100万本ふるさとの森づくり」事業の内の10万本を10年間かけて植樹。17年経った今では樹高16mを超えるまでに育った樹もあり、立派に森の景観を呈してきており、森の成長と共に動植物も確実に多様性を増してきています。</p> <p>植樹祭やその後の手入れに多くの市民が関わった総面積約7haの森を含むGPも、ぜひP6の「生きものがにぎわう場所④」の環の中に入れほしい。</p> <p>それこそ、「古賀に関わるみんなで生きものや自然を豊かにしていきたい」等の願い（P1）や4つのAction（P17）にふさわしい「生物多様性古賀戦略」になると思います。</p>		
3		<p>生きものがにぎわう場所⑩として、古賀グリーンパークの追加を提案します。グリーンパークは、平成13年度から「古賀市10万本ふるさとの森づくり」で古賀の植生を活かした植樹が行われ、多くの市民が関わってきました。実行委員会をはじめ多くの方々のおかげで、現在は見事な森となり、様々な生きものが生息しています。市民が集いやすいグリーンパークは、気軽に自然に触れあえる場所でもあります。</p>		
4		<p>6p～7pの「古賀を知ろう」の中の地図に「古賀グリーンパーク」が選ばれていないことに意見します。「古賀グリーンパーク」は、市民のいきの場としてだけでなく、自然な植生を活かした公園とこのことを伺いました。公園のこれからのあり方について詳しいわけではないので、選ばれていない理由がわかりません。</p> <p>そこで、古賀グリーンパークを地図上に明記していただきたくご提案します。</p>		

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画案への反映	ご意見への回答
5		<p>古賀市内には、市民にとって身近な自然であり、だれでも気軽に野生天然の生物に触れることのできる公園がいくつもあります。</p> <p>また、そこにはそれを守る活動をされているボランティアの存在があります。</p> <p>具体的には、薬王寺水辺公園、千鳥ヶ池公園、古賀グリーンパークなどが挙げられます。</p> <p>今回策定の生物多様性地域戦略（案）において、薬王寺水辺公園・千鳥ヶ池公園は、P.6,7に表示されていますが、古賀グリーンパークは記載がありません。</p> <p>何らかの形で記載をされてはどうかと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>以上、ご検討をよろしく申し上げます。</p>		
6	28 ページ 野生鳥獣被害への対策	<p>文章の誤字脱字</p> <p>最後の方、野生鳥獣被害の防止に向けた・・・</p>	修正します	ご意見いただいた文章の後ろに「取組」を追加します。
7	34 ページ 地産地消の推進	<p>生物多様性を活かす意味で、地産地消の推進の内容がちょっと曖昧な感じがする。</p> <p>産業振興を図るが第1 議のような文章は違和感あり。</p> <p>例えば、 地域で生産された農作物を消費することで、輸送エネルギー等の観点から温室効果ガスの削減、環境負荷の低減を図り、更には輸送コスト削減や地域の産業振興など経済活性化にもつながる。地産地消の推進は、学校給食等での地場農産物の活用や、農産物直売所、各種イベントを通じて行っていく。</p>	修正します	ご意見を踏まえ、表現を修正します。

番号	該当項目	パブリック・コメント（ご意見）の内容	計画案への反映	ご意見への回答
8	34 ページ 県産木材の活用	<p>そもそも古賀産木材利用は図られているのか、もしないならこの項目は不要では。 必要であるなら、ここの文章は意味合いが少しおかしい感じがする。</p> <p>例えば、 県産木材を積極活用していくことにより、植栽・育林・間伐等の森林整備が図られ、水源の涵養、土砂の流出防止などの森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させていく。具体的には、公共建築物や内装の木質化や公共土木工事における木材利用の推進を図っていく。</p>	修正します	ご意見を踏まえ、表現を修正します。
9	41 ページ 戦略の進行管理	<p>生物多様性古賀戦略は、「古賀市環境基本計画」に沿って策定されていることから、「古賀市環境基本計画」と同様に古賀市環境審議会で報告を行うとともに、PDCA サイクルによる進行管理を行い、社会・経済情勢へも柔軟に対応し、上位・関連計画との整合性を図りながら必要に応じた見直しを進めます。</p> <p>具体的なスケジュールがわかりづらい。概略スケジュール表を提示するか、少なくとも何年か毎に進行具合を市民に公開・公表するなどの内容を入れるべきだと思います。</p>	修正します	ご意見を踏まえ、進捗状況の公表について記載するよう修正します。